

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19720182

研究課題名（和文） 近現代インドにおける歴史記述の変遷

研究課題名（英文） History Writing in Modern India

研究代表者 井坂 理穂

（ISAKA RIHO）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：70272490

研究成果の概要（和文）：本研究では、近現代インドにおいて歴史記述のあり方がいかに変遷したのかを、インド西部グジャラート地方の知識人層に焦点をあてて検討した。その結果、この地方において、独立前後の政治過程を背景に、インドの統一性を強調する歴史記述が台頭したことや、その一方で特定のコミュニティの立場から、コミュニティごとの差異を強調しつつ「インド」との関係を探る多様な歴史像が表されたことが明らかになった。さらに本研究は、これらの歴史認識が、独立後の州再編過程や、宗教コミュニティ間、地域間関係をめぐる議論といかに連関していたのかを具体的に示した。

研究成果の概要（英文）：This project has analyzed the ways in which history was narrated in colonial and post-colonial India, focusing in particular on writings of Gujarati intellectuals in western India. Its results show that, while narratives which emphasized the historical unity of India became dominant due to the political context around the time of independence, there also existed a variety of narratives written from the perspectives of specific communities, which stressed differences among communities and tried to find out how to relate themselves with 'India'. This project has also demonstrated how these different perceptions of history influenced and were influenced by the process of reorganizing states as well as the debates over the relationships between regions and religious communities after independence.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	0	800,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	900,000	270,000	1170,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	2,900,000	630,000	3,530,000

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：南アジア史

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、イギリス植民地期のインド知識人層に焦点をあて、彼らがどのように

「自分たちの歴史」を再構築しようとしたのかを、彼らの様々なアイデンティティのあり方と関連づけながら議論した研究が多数出された。しかしその一方で、1947年のイン

ド独立以降に、それまでの歴史記述にどのような変化が加えられたのかについては、十分な検討が加えられていない状況にあった。筆者自身も、それまでは植民地期のインド知識人層の歴史記述を分析していたのだが、新たに対象範囲を独立後にまで拡大し、インドにおける歴史記述の変遷過程を検討したいと考えたことが、本研究の出発点となった。

## 2. 研究の目的

本研究では、近現代インドにおいて歴史記述のあり方がどのように変遷したのかを、インド西部グジャラート地方の知識人層に焦点をあてて明らかにすることを目的とした。まず、植民地期から独立後にかけてのこの地方の代表的な歴史書を取り上げ、それらが書かれた当時の政治・経済・社会的背景と照らしあわせながら、それぞれの特徴を明らかにすることを試みた。そのうえで、歴史記述の変遷を通時的に追いながら、今日のインドにおける歴史解釈・歴史教科書をめぐる論争なども視野に入れつつ、今後の歴史記述のあり方を検討することを目指した。

## 3. 研究の方法

インド、イギリスの図書館・文書館・教育機関で資料収集を行い、近現代のグジャラート地方において、知識人層の間で広く流通していた歴史書、著名な社会・文化団体の発行する雑誌その他の出版物、州議会文書のなかに現れる政治家たちによる歴史解釈などを集め、それらの特徴や背景を分析した。さらに、地域間の比較という視点を部分的に導入し、グジャラートとインドの他地域の事例とを比較することで、グジャラートにおける歴史記述の特徴を明らかにするとともに、歴史認識が地域間関係にどのような影響を及ぼしているのかを考察した。

## 4. 研究成果

(1) 本研究の成果としては、まず、植民地期から独立以降にかけて、グジャラート地方の知識人層に多大な影響を残した K・M・ムンシー (1887-1971) の歴史記述について、歴史書、歴史小説はもとより、随筆、講演、自伝などを幅広く収集しながら、それらの特徴を明らかにした。現在も彼の作品は広範な知識人層に読まれており、その内容や表現が引用されることも少なくない。しかし、政治家・文学者としてのムンシーの知名度の高さにもかかわらず、彼の歴史観を政治・社会的

背景と照らしあわせながら、また、それぞれの時代の変化にも着目しながら、総体的に分析した研究は必ずしも多くない。本研究では、まず彼が 20 世紀前半に、インド、グジャラートのそれぞれについての歴史像を提示し、「アーリヤ」概念を用いながら両者を重ね合わせていった過程を示した。さらにインド・パキスタン分離独立以降は、国家統合への模索や分離主義への警戒を背景に、インドの異なる地域間の統一性、共通性をさらに強調した歴史像を提示したことを明らかにした。また、彼が自らの設立した文化団体を通じて、インドの歴史や「伝統」についての認識を、国内はもとより、海外のインド系移民にまで広めようとしていたことにも着目した。こうした諸活動は、独立後のインド政治における「ヒンドゥー・ナショナリズム」の展開ともしばしば絡み合うこととなる。これらの研究成果は、海外の学会で報告したほか、一部は近く英語論文としての刊行が予定されている。

(2) 一方で、本研究では、ムンシーに代表されるような広範な影響力をもつ知識人と対照させるかたちで、いわば「周縁」に位置した知識人の残した歴史記述にも着目した。たとえば「ヒンドゥー」以外の宗教コミュニティに属する知識人たちの歴史記述には、インドの統一性・共通性を強調するムンシーらの歴史像に対して、コミュニティごとの差異を重視しつつ、「インド」という存在といかに折り合うかを模索するありさまが反映されている。これらの歴史記述は、これまで学術書・論文のなかで部分的に参照されることはあったものの、本研究ではさらに、同じ個人やコミュニティの歴史記述のなかにも、さまざまな揺れや相違があることに留意し、それらの背景も考慮しながら、より綿密な分析を行った。

(3) さらに本研究は、グジャラートの事例を、インドの他地域における歴史記述の特徴と比較することにより、地域的な特徴を考察した。その結果、この地方が M・K・ガーンデー率いる独立運動の中心地としての役割を担い、独立後も知識人層がその記憶を強く意識していたことが、彼らの歴史記述全般に大きな影響を与えていたことが明らかになった。こうした歴史記述、歴史認識はさらに、独立後にこの地方が「州」として再編される際の政治過程や、中央政府及び他州との関係にも反映されることになる。本研究は、これまで政党や政治家間の対立・交渉を中心に描かれてきた州再編過程について、地域間の歴史認識の相違に焦点をあてることにより、その背景をより明確に示すことができた。州再編過程と歴史記述、歴史認識との関連について

ては、海外の学会で報告し、現在、これを論文として刊行するための準備を進めている。また、近く国内の学会においても、国内外の研究者と共同で州再編過程に関するパネルを設置することが決まっており、このなかでも本研究の成果を報告する予定である。

(4) 上記のような成果を踏まえたうえで、現在、植民地期から独立後にかけてのグジャラート地方における歴史記述の変遷をまとめる作業を進めているほか、歴史教科書の地域間比較など、個別テーマに関する論文を準備中である。また、筆者は今年度から、国内外の共同研究者とともに、近現代インドにおける食文化とアイデンティティに関する複合的研究を開始したが、そのなかでも歴史書、歴史教科書において食文化がいかに語られているのかを分析している。本研究の問題意識や成果は、この新規の研究プロジェクトにもつながるものと期待される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

(1) 井坂理穂 「歴史記述からみた『植民地的近代』」『南アジア研究』第 22 号、2010 年、pp.313-26. 査読無

(2) Riho Isaka, 'Different Meanings of Modernity in Colonial India: The Life and Thoughts of Cornelia Sorabji (1866-1954)' 『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻 紀要』第 13 号、2008 年、pp.15-28. 査読無

(3) Riho Isaka, 'Patronage and Literature in Colonial Gujarat', *International Journal of South Asian Studies*, vol.2, 2009, pp.43-59. 査読有

[学会発表] (計 6 件)

(1) Riho Isaka, 'Stories of "Martyrs" in the Maha Gujarat Movement', European Conference on Modern South Asian Studies, 2010 年 7 月 29 日, ボン大学 (ドイ

ツ)

(2) 井坂理穂 「1950 年代のインドにおける言語州問題—グジャラート州の成立過程」日本南アジア学会第 22 回全国大会、2009 年 10 月 3 日、北九州市立大学

(3) Riho Isaka, 'Gujaratni Asmita: K.M. Munshi on Gujarat and India', Gujarat Studies Association, 2nd Biennial Conference, 2008 年 5 月 23 日, トロント大学 (カナダ)

(4) Riho Isaka, 'Defining Gujarat: K.M. Munshi's Writings on the History of Gujarat', *The Idea of Gujarat: History, Ethnography and Text*, 2008 年 5 月 16 日, ロンドン大学 SOAS (イギリス)

(5) 井坂理穂 「植民地期インドにおける歴史認識」日本南アジア学会設立 20 周年記念連続シンポジウム第 4 回、2008 年 4 月 26 日、東京大学

[図書] (計 1 件)

分担執筆。 Riho Isaka, 'Indian Nationalism and Gujaratni Asmita: K.M. Munshi on Language Problems'. Anjoom Mukadam and Sharmina Mawani(eds), *Gujarati Communities across the Globe: Memory, Identity and Continuity* (Trentham Books, 近刊予定)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

井坂 理穂 (ISAKA RIHO)

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：70272490

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：